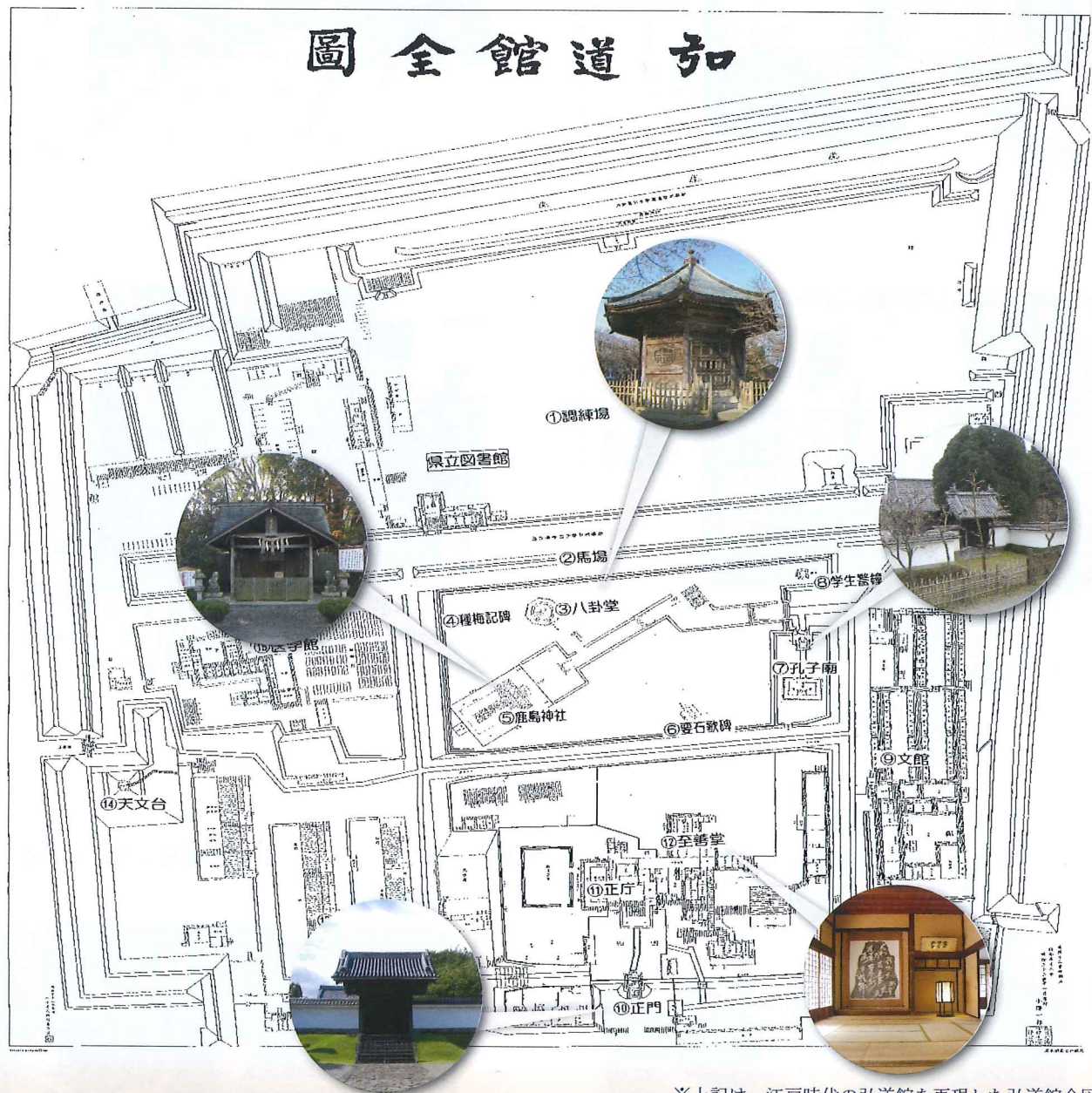


みと好文カレッジ情報

～生涯学習社会の構築をめざして～ Vol.3

平成23年3月31日発行
発行所 水戸市教育委員会
みと好文カレッジ
〒310-0852
水戸市笠原町 978 番地の 5
水戸市総合教育研究所 3 階
電話 029(303)6602
FAX 029(303)6601

Mail koubun@pluto.plala.or.jp
URL <http://business2.plala.or.jp/koubun>



※上記は、江戸時代の弘道館を再現した弘道館全図です。

みと好文カレッジは…

市民の皆さんの生涯学習を応援します。何かを始めてみようと思ったとき、何をするか迷っているとき、一人では第一歩を踏み出すのに勇気が必要です。こんなときに、みと好文カレッジがお手伝いします。

各市民センターの定期講座情報や「あなたも師・達人制度」からの講師紹介など、生涯学習の羅針盤になればと思います。

子育て応援塾

家庭の教育力の向上とひとづくり・まちづくりの活性化を図ることを目的として子育て応援塾を開催します。



親業訓練講座
～親のための栄養補給
こころのサプリ～

高校生までの子を持つ親を対象に、親と子の間に心のかけ橋を架けるためのコミュニケーション法を学びます。



ベビーマッサージ講座
～ママの手は魔法の手～

母が子をマッサージすることにより、母と子が相互に持っている育児能力と愛護される力を引き出すことを目指します。



親子ヨガ講座
～心と身体のリフレッシュ～

子育て中の親のストレスを解消させるとともに、子どもと一緒に体を動かすことで親子のふれあいを深めます。



「世界がもし100人の村だったら」ワークシヨップ版

「世界がもし100人の村だったら」に描かれた世界の現実を疑似体験することにより“多様性の尊重”と“貧富の格差”を学びます。

東湖塾

※
市民センター職員を対象に現代的課題を扱った講座(学習プログラム)の研究・開発を行うとともに、市民センターで活用できるよう話題性の高い新しい講座を提案します。



学習プログラム作成研修



新講座提案事業

※現代的課題とは環境問題や食育など、社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために学習する必要がある課題をいいます。

好文塾

東湖塾で作成した講座(学習プログラム)を市民センター事業に根付くよう好文塾と名づけ、市民センターとみと好文カレッジの共同事業として開催します。

東 部

がんばれ！育メン応援プロジェクト ～パパちから応援隊～

父親が育児の大切さを理解し、積極的な育児参加をすることにより、子どもと一緒に自分自身も成長することを目指します。

竹隈・上大野・城東・吉田・酒門・吉沢市民センター



▲ 子どもとふれあうパパ時間



▲ 新聞紙を使ったエコバッグ作り

南 部

エコ感性をみがこう！ ～家庭で取り組むエコライフ～

身近なエコの知識を学ぶことにより、市民一人ひとりが楽しいエコライフを実践できるようになることを目的に開催します。

緑岡・寿・見川・見和・千波・笠原市民センター

常 澄

Beautiful Life 美的生活 ～より美しく、より健康的に～

女性の健康に関する知識を深め、より美しく健康的な生活を送ることを目指します。

下大野・稲荷第一・稲荷第二・大場市民センター



▲ 健康と美しさを保つウォーキング



▲ やさしい介護の模擬体験

赤塚市民 センター

がんばりすぎない介護のススメ ～笑顔で毎日をすごすために～

介護学習・体験を通して、介護に対する理解と対処法を学ぶことにより、将来介護に直面したときに、介護する方が心身ともに健康で充実した生活を送ることを目指します。

育児ボランティア



■託児の風景



子育て中の親御さんが、生涯学習活動に参加しやすくなるよう、みと好文カレッジに属する育児ボランティア「えくぼ会」のみなさんが一時的にお子さんをお預かりする制度です。

講演会などに参加している親御さんはもちろんのこと、お子さんや育児ボランティアのメンバーも一時保育(託児)という時間の中で貴重な経験をし、生涯学習を実践しています。

また、育児ボランティアの応募も随時受け付けています。

みと好文カレッジでは、託児の際に必要な知識を習得するため、育児ボランティア研修会を開催しています。



■一般普通救命・AED 講習

❖利用者の声❖

◇今回のように託児つきだと大変助かります。(逆に託児が無いと参加できませんでした)

◇託児付きということで、子どもを気にせずに学ぶことができました。

◇子どもを御親切に預かっていただきありがとうございました。

生涯学習相談

みと好文カレッジでは、市民の皆様の生涯学習に関する相談に応じるため、生涯学習相談を受け付けています。どうぞ、お気軽にご相談ください。

＜例＞①市民センターで開催している講座について知りたい。

②講演会の講師を探している。

③子育て仲間に出会える場を探している、など。



あなたも師・達人制度

「あなたも師・達人制度」は、豊富な知識・経験・優れた技術や才能を持つ方の登録・紹介制度です。市民の皆様の生涯学習支援のひとつとして、市民センターや地域のサークル活動の講師として紹介しています。幅広いジャンルの達人が登録されていますので、お気軽にお問い合わせください。



▲学校でのボランティア珠算教室

みと弘道館大学院 「さがけ塾」

生涯学習活動をとおり、市民と行政との協働による元気都市・水戸の実現に向け、まちづくりに携わる人のためにみと弘道館大学院「さがけ塾」を開催します。

ここでは、講義に加え、市民による地域活動の現地視察やグループに分かれてのワークショップなどを取り入れ、市民生活を豊かにする学習講座の企画・立案のノウハウを学びます。



▲ 受講生同士のアイスブレイク

まちを人を元気に！
必要なのはあなたの力！



▲ 江戸川総合人生大学生との交流会

～水戸の魅力発見「なんだか嬉しい」アルバム作り～



■ グループでのアルバム作り



■ ある受講生の「なんだか嬉しい」

第4回「さがけ塾」では、「水戸のなんだか嬉しい」をテーマにアルバム作りに挑戦しました。

これは、受講生達が日常の1コマを題材に、幸せを感じる瞬間や風景などを撮った写真にコメントを載せたものを持ち寄り、グループに分かれて1つの作品にしようという試みです。

短い時間での作業にもかかわらず、どの作品も美しいストーリーを奏でる力作ぞろい！

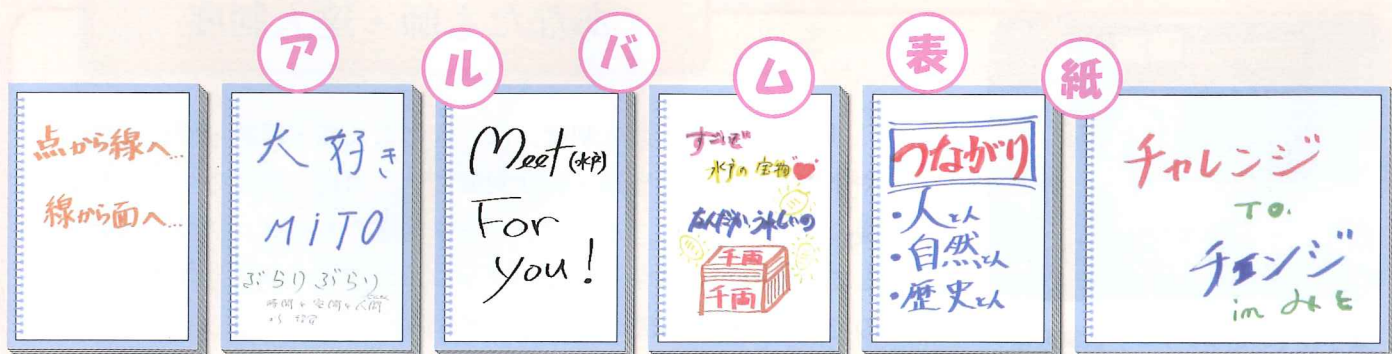
アルバム作りに取り組む受講生の皆さんのイキイキとした表情が、とても印象に残りました。



■ 講師の長谷川幸介先生



■ グループ発表の様子



—みと好文カレッジゆかりの地を訪ねて—

あいざわ せいしさい
会沢 正志斎

1782-1863



会沢正志斎(1782-1863)は、江戸時代末期の儒学者で水戸藩を代表する思想家です。正志斎は、藤田幽谷が梅香町(みと好文カレッジの旧在所)に開いていた私塾「青藍舎」に10歳にして入り、幽谷に師事しました。幽谷は、「正名論」を著して、尊王論を論じましたが、幽谷の高弟として、この思想を継承・発展させたのが正志斎でした。

正志斎は、天保2年(1831)には彰考館総裁となり、弘道館の設立にも深く関わりました。天保11年(1840)には、初代の弘道館教授頭取に就任するなど要職に就く一方で、幕末の水戸藩や我が国の行く末を論じた重要な多くの著作を著しました。

また、当時、鎖国中であった日本の外交情勢に目を移すと、文政7年(1824年)にイギリスの捕鯨船の船員12名が水戸藩領の大津浜(今の北茨城市)に上陸するという

せいらんしゃ

青藍舎が輩出した志士

～みと好文カレッジ～

事件が起りました。浦賀沖(今の神奈川県)にペリー提督率いる黒船が姿をみせる30年ほど前のことです。

水戸藩は兵を出して警戒するとともに、正志斎らが派遣され取調べに当たりました。すでに、20歳の時には、ロシア人の千島進出についての風聞を収録した『千島異聞』を著すなど、対外問題に関心が深かった正志斎は、この事件を契機に、アジア進出を図る列強諸国に対する危機感を一層強めることとなりました。

この時代、外交政策ばかりでなく、内政的にも行き詰まりをみせる混沌とした時代にあつて、幕府により文政8年(1825)、「異国船打払令」が發布されると(天保13年(1842)廃止)、正志斎は、これを幕府政治建直しの好機ととらえ、藩主斉脩への進言として『新論』を著しました。

この論旨は、迫りくる内外の危機に対して、天皇・朝廷を敬う尊王論と、欧米列強の勢力を排する攘夷論を結びつけた尊王攘夷の思想を理論的に体系化したもので、幕末の水戸藩や明治維新を迎える我が国の行く末に大きな影響を与えるものとなりました。

しかし、正志斎は晩年には、開国

論に転じ、攘夷鎖国の体制について「万国が和親通好するなかで、時勢を知らざるは、我が国を孤立させ、諸国を敵にする行動である。」との「時務策」を一橋慶喜に上呈しています。

その正志斎が学んだ「青藍舎」の跡地に建てられたのが社会センター(後の「みと好文カレッジ」)です。

みと好文カレッジは、この地で、生涯学習の発信基地としての役割を担ってきましたが、現在は、活動の場所を水戸市総合教育研究所に移し、全市的な生涯学習を推進しています。

